



発寒ひかり  
保育園だより

2025年  
5月号

巻頭言

Mちゃん（うさぎ組・3歳児）が、4月にくりファミリーに入ってまもなくのおやつ時間のことです。うさぎ組以上の子は牛乳パックを自分で洗います。担任が「初めてだから一緒に洗いに行こうか」とMちゃんに声をかけると、それを聞いていたSくん（きりん組・5歳児）が「一緒に行ってあげるよ」とMちゃんを水道まで連れて行ってくれました。洗い終わった2人が手を繋いでお部屋に戻ってきたので、Sくんに「教えてくれてありがとう」と伝えると、とても誇らしい表情をしていました。そしてSくんの優しさがMちゃんの心に響き、ずっとSくんの手を握って一緒に遊んでいました。

その後、Sくんは友だちと約束していたトランプ遊び（スピード）をしようとしたが、Mちゃんには難しいと気付き、ババ抜きを提案しました。Mちゃんに手札を持たせたり、カードを捨てさせたりと一緒に出来るように考えたのです。Mちゃんも自然と笑顔になり、Sくんに教わりながら楽しんでいて、まるで本当の兄と妹の“きょうだい”を見ているようでした。その出来事をきっかけに2人の距離はぐっと近づき、Mちゃんの笑顔も増え、友だちとの関わりが広がっています。

Sくんの優しさは、新しい環境の中で過ごすMちゃんの“不安”な気持ちを“安心”に変えてくれました。お互いの存在を受け入れ育ち合える関係を築いていけるのは異年齢保育ならではの魅力です。今後も子どもたちの素敵な関わりを見守っていきたいと思います。

くりファミリー・きりん組担任 高橋 郁美